

## 東シベリア・スントルハイアタ山脈地域の雪氷・気象観測 (2004-2007)

## Glaciological and meteorological observations in Suntar-Khayata Range, Eastern Siberia, in 2004-2007

# 高橋 修平 [1]; 杉浦 幸之助 [2]; 亀田 貴雄 [3]; 榎本 浩之 [4]; Kononov Yury[5]; Ananicheva Maria[6]

# Shuhei Takahashi[1]; Konosuke Sugiura[2]; Takao Kameda[3]; Hiroyuki Enomoto[4]; Yury Kononov[5]; Maria Ananicheva[6]

[1] 北見工大; [2] 海洋機構; [3] 北見工大・社会環境; [4] 北見工大・土木開発; [5] ロシア地理研究所; [6] ロシア・地理研究所  
[1] Kitami Institute of Technology; [2] JAMSTEC; [3] Kitami Institute of Technology; [4] Dept. of Civil Eng., Kitami Inst. Tech.; [5] Geographical Institute, Russia; [6] Geographical Institute, Russia

## 1. スントル・ハイアタ山脈と国際極年

1957/58年の国際地球観測年 IGY 当時、ロシアは東シベリア、スントル・ハイアタ山脈地域で気象観測および氷河分布観測を精力的に行った。その50年後、第4回国際極年 IPY(2007/08年)の再調査データとして、我々はロシア科学アカデミー・地理研究所と協力してこの地域の気象学的調査を行った。

## 2. 2004 - 2005年観測

2004年8月に、オイミヤコン村(標高680m)気象観測装置を設置し、さらにトムトルの町との間、30km区間に気温計・降水計気象観測装置を設置した。スントル・ハイアタ山脈 No.31 氷河末端付近(標高2050m)にも気象観測装置を設置した。その結果、氷河では最低気温-45 前後、平野部のオイミヤコンでは最低気温約-60 を記録した。

## 3. 2006 - 2007年観測

2006年9月~2007年9月にかけて、マガダン~オイミヤコンのコリマ街道沿いに気温計・降水計気象観測装置を設置・回収を行った。その結果、海辺のマガダン域は最低気温が-20 台であるのに対し、内陸部では-50 台となり、オイミヤコン地区は-60 近い値を示した。同じ地域でも谷部と丘陵上部では、谷部の方が気温は低く、インディギルガ川およびコリマ川の上流部では冬の間、強い気温逆転層が長く形成されていることがわかった。